

一斉学習 児童生徒実践型

実践タイトル プレゼンテーションソフトウェアと電子黒板を併用したICT活用授業

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

・画面に映された写真等の「どこの箇所を見ればよいか」を生徒に的確に伝えること、また、生徒の積極的な授業参加をねらいとする。

自作PC教材

・PCの画面を映し出すことにより、教師が示そうとしている教材を教室にいる全ての生徒と共有し、学習意欲を高めることをねらいとする。

参考にしてほしいポイント

- ・プレゼンテーションソフトウェアによる教材の示し方（印刷物による教材との比較）。
- ・電子黒板を利用した、生徒の学習参加。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 5	・東日本大震災の津波の写真を示す。 ・ニュース映像からマグニチュードの意味を確認し、大震災がどれほどの被害をもたらしたのか考えさせる。	・プレゼンテーションソフトウェア (写真1)
展開 5 35	・電子黒板で日本地図を拡大し、大津波警報や津波注意報がどれほどの範囲に発令されたか確認する。 ・丹後大震災の近畿地方の震度を示し、地元で起こった直下型地震に興味を持たせる。 ・日本列島にある断層を示した地図を見せ、中学校の校区にも断層（山田断層）があることに気付かせる。 ・山田断層によって想定される地震が起こった時、震度7ほどの揺れを感じる範囲を考えさせる。 ・生徒自身の避難場所を確認させ、非常袋に入れておくものを考えさせる。	・電子黒板 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用した自作PC教材(写真2) ・与謝野町防災マップ ・タブレットPC(写真3) ・ワークシート
まとめ 35 45	・非常食、道具類など、ワークシートに書いたものを交流しながら、缶詰、乾電池、懐中電灯などの実物を示す。 ・家族で防災について、考える機会を持つ大切さを伝える。	・缶詰、乾電池、懐中電灯などの実物 ・ワークシート



写真1: 東日本大震災の映像を電子黒板機能を使って解説



写真2: 丹後大震災と山田断層の存在を映像とプレゼンテーションソフトウェアで解説



写真3: タブレットPCを使用して防災マップに生徒が記入

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・PC画面を大画面に映し出すことで、生徒が下を向くことが少なく、学習意欲を高めることができた。また、電子黒板を生徒にも使わせることで、生徒の自主的な学習参加を促す効果があった。

活用効果

評価の観点

・社会的事象への関心・意欲・態度

具体的変容

・毎回の授業でPC機器を利用することで、教師の指示がなくても自然と生徒の視線がテレビ画面に向くようになり、学習内容に興味を持たせることができた。

実践の手応え

- ・電子黒板を使うことによって、画面上に提示された資料を見るだけでなく、教師が資料の中で見てほしい部分を全員の生徒に伝えることができ、瞬時に教材に興味を持たせることができた。